

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

《令和8年 新年のご挨拶》

P2. 会長、副会長、事務局長のご挨拶

■ 高齢者福祉事業

P3. 養護老人ホーム 仙台長生園

特定施設 仙台長生園

P3~6. 仙台楽生園ユニットケア施設群

特別養護老人ホーム仙台楽生園

住宅型有料老人ホーム創快館

グループホーム楽庵

楽園デイサービスセンター

葉山地域包括支援センター

葉山ケアプランセンター

葉山ヘルパーセンター

P6. 沖野老人福祉センター・沖野居宅介護支援センター

■ 児童福祉事業

P7. 幼保連携型認定こども園仙台保育園

P7. 幼保連携型認定こども園中山保育園

P7. 柏木保育園

P8. 富沢わかば保育園

P8. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P8. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

■ 教育事業

P9. 仙台理容美容専門学校

《 令和8年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

会長 植木 祐子

新年のお慶びを申し上げます。

昨年は記録的な猛暑の他、各地で頻発する山火事や豪雨災害、地震や竜巻等、気候変動や自然災害等あらゆるリスクに備えた法人運営について考えさせられる1年でした。世の中の急激な変化に対応できるよう経営基盤の安定化を図るため、職員確保と実践を担う人材の育成に努めるとともに、地域共生社会づくりと災害時の広域連携について、法人全体で推進してまいります。



副会長 石道 久子

新年あけましておめでとうございます。

2028年に法人設立100周年を迎えます。戦前より、その時代時代の社会状況の中、様々な活動を展開し多くの方々に支えられ、今日まで事業を行えて来たことに感謝の気持ちと、歴史ある法人の一員であることに誇りを持ちたいと思います。

今年も、法人の基本理念「いつも希望を、もっと笑顔を、ずっと安心を実現したい」を実現するために、職員の皆様と力を合わせながら風通しの良い法人作りに尽力して参ります。

事務局長 佐藤 康彦

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、当法人の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

事業所長も申し上げておりますが、各事業所が、その地域で「寄り添い」「根差し」「なくてはならない存在になる」ことを目標に、職員一同力を合わせて取り組んでまいります。少子高齢化や生産労働人口の減少など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しておりますが、だからこそ地域の皆様と共に支え合い、安心して暮らせるまちづくりを進めていくことが重要だと考えております。

皆様にとって本年が健康で笑顔あふれる一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



養護老人ホーム仙台長生園

特定施設仙台長生園

園長 小船 順子

新年あけましておめでとうございます。

2025年は、少しずつ明るい流れを感じる1年でした。

3月には、県内の運営を終了した養護老人ホームから19名の利用者様をお迎えし、施設としても新しい一歩となりました。

このことをきっかけに、新しい市町村措置元とのご縁も広がり、措置・契約・ショートのご相談も増えるなど、地域とのつながりがより深まったと実感しております。

これからも、地域の皆様にとって「安心して頼れる場所」であり続けられるよう、職員一同心を込んで取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

仙台楽生園ユニットケア施設群

総括施設長 植木 祐子

昨年は葉山の森おもちゃ図書館を5月から再開、8月から毎月第3木曜日に仙台むつみ荘より保育士の派遣をいただき子育て支援の企画が実施できました。リピーターも増え6組13名の親子がお越しください、にぎやかな声が響いています。施設群内の事業所間連携については、切れ目なく事業所間でサービスを繋いでいくこと、地域に出向いての認知症サポーター養成講座・フレイル予防講座への職員派遣等、前年同様に実施できました。今後も地域公益的活動の充実、施設群内の親睦会活動の活性化と連携推進を目指し取り組んでまいります。

特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 植木 祐子

昨年は、介護職員確保についてこれまでになく非常に厳しい状況が続きました。フロアの枠を超えた協力体制や多職種間の連携、介護以外の業務切り出し等、現場では様々工夫を重ねて対応いただいていますが、先ずは必要な人員を整えることが最優先の課題と捉えています。一方で、採用から数年の職員が着実に成長し力を發揮している姿に励まされたり、実習後にアルバイトとして活躍いただいた後新卒採用で迎えた職員もおり、非常に心強く思います。人材確保と職員育成に力を注ぎつつ、ICT化を推進する一年にしたいと思います。

住宅型有料老人ホーム 創快館

施設長 植木 祐子

令和7年1月から12月迄で3名の方が退所、4名の方を新たにお迎え致しました。そのうちお二人はご夫婦での入居でとても仲睦ましく過ごされています。最高齢の102歳を筆頭に平均年齢90歳を超えていらっしゃいますが、コロナ禍以降途絶えていた外出行事を再開した他、毎日の歩行運動や散歩、麻雀等の趣味活動と、いずれの皆様も元気に創快館での生活を過ごされています。日々の健康管理に努め、毎日を明るく朗らかにお過ごしいただけるようサポートしてまいります。

グループホーム楽庵

施設長 石井 紀之

明けましておめでとうございます。

グループホーム楽庵では、音楽ボランティアの受入や家族との敬老会等、少しずつネクストコロナを意識した活動ができました。目下では、新年を迎えるにあたり書初めや初詣を計画中です。利用者様お一人お一人の想いを尊重し、より良い暮らしとなる飛躍の年にしたいと考えておりますので、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

楽園デイサービスセンター

所長 加藤 直真

新年あけましておめでとうございます。

2026年 皆様と新しい一年を迎えることを心から嬉しく思います。

さて今年は午年となります。馬は繊細でありながら優しさがあり、調和を保つつ力強く一歩を踏み出す勇気を持ちあわせる動物と言われています。午年にあやかり私達も環境の変化に合わせながらも周囲に振り回される事なく、自分のペースを大切にして前へ進む一年にしていきたいと思います。

その為には個々の力も大切ですが、チームとしての連携、共有、助け合いが重要であると考えます。

己のチーム力を信じて、精励恪勤致しますので、

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

葉山地域包括支援センター

所長 坂 幸子

新年、明けましておめでとうございます。地域の皆さん、利用者の皆さん並びに関係機関・団体の方々におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は、本地域包括支援センター事業の円滑な運営に、温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。本年も地域における相談窓口として地域の皆さんとのつながりを大事にしながら、引き続き職員一丸となって 地域包括支援センター事業を実施してまいります。皆さんの変わらぬご理解とお力添えを賜りますようお願い申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

葉山ケアプランセンター

所長 植木 祐子

令和7年度は職員 1 名増員となり、人員体制の強化が図られました。居宅介護支援、及び介護予防居宅介護支援の直接契約による件数も着実に伸び、事業所として目標に掲げた年度当初の計画を上回る成果をあげることができました。また、ケアプラン適正化事業も実施され、事業所全体で各種書類の整備状況や、個々のケアマネジメント実践について再確認する機会となりました。今後も事業所内の情報共有と連携の下、更なる実践力向上に努めます。

葉山ヘルパーセンター

所長 植木 祐子

昨年は数年ぶりで登録ヘルパー1名を新たに採用することができました。常勤職員、登録ヘルパーも経験豊富な職員が揃っており、障害サービスの利用増加に伴い、訪問介護サービス・障害サービス共に前年度を上回る収益を得ることができました。今後も地域の多様なニーズに応えられるよう、年間の研修計画に基づき個々のスキルアップを図りながら、サービスの質の向上、実践力向上に努めます。

沖野老人福祉センター

館長 天野 博美

あけましておめでとうございます。

沖野老人福祉センターは、昨年新しく理念を構築しました。

「すべては地域(明日)のために」を基本理念に、

1. 今日よりも明日
2. 笑顔あふれる環境
3. 地元 LOVE

の三点を理念として掲げました。目指すところは、『認知症になつても障がいがあつても、誰もが安心して過ごすことのできる地域作り』です。常に来館されるご利用者様と共に歩みを進めることを意識して、地域共生社会の実現に寄与できるよう取り組みました。

新しい年、地域に根差した高齢者施設として、地域共生社会の実現に向けて、更に取り組みを充実したものにしていきたいと考えていますので、今年も宜しくお願ひします。

沖野居宅介護支援センター

所長 天野 博美

沖野居宅介護支援センターは、昨年 4 月から介護予防支援事業の指定を受けて、直接契約による介護予防支援が開始されました。また、地域包括支援センター、病院への定期的な営業活動を行うことで、利用者獲得に努めました。

また、職員の資質向上のために、オンラインでの研修だけでなく、外部研修にも積極的に参加し、外部ケアマネとの繋がりを強化しています。昨年義務化された BCP についても、災害発生、感染症蔓延に備えて見直し、机上訓練を実施しました。

沖野居宅介護支援センターは基本理念を「住み慣れた地域の中で、私らしく暮らしたい」を支えますと掲げ、今年も、担当するご利用者様の在宅生活が少しでも長く継続できるよう、ご家族が無理なく介護が続けられるよう、お手伝いしてまいります。

幼保連携型認定こども園 仙台保育園

園長 土屋 志津子

あけましておめでとうございます。

昨年はコメ不足、物価高騰で生活しにくい1年で、仙台保育園も節約できることを考えながら運営してまいりました。そんな中でFOOD GOOD SMILEでお米を頂いたことはとても嬉しいことでした。

今年も職員一人ひとりがお互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にしながら子ども達と向き合って、これからも子ども優先、保護者に寄り添うという姿勢を忘れずにいたいと思っています。子ども達、保護者の方々、そして職員も笑顔あふれる1年となるようにと願っております。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

幼保連携型認定こども園 中山保育園

園長 佐藤 由美

明けましておめでとうございます。近年保育現場では職員の人材確保や定着が課題となっていますが、子ども達の健やかな育ちを支えるためには、保育者自身が安心して働く環境が必要で、語り合える仲間がいる"働きとなる職場作り"を目指していきます。そして2026年も子ども一人一人に寄り添い、それぞれの年齢の今を大切にした教育・保育を心がけ、安心安全の中子ども達が豊かに過ごせる環境を作り、選ばれる保育園であるよう頑張っていきます。"毎日が楽しい、嬉しい"と保育園時代の幸せがたくさん感じられ、子ども達も保護者も職員も笑顔あふれる年にしたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。

柏木保育園

園長 高野 誠

新年あけましておめでとうございます。

令和8年は、柏木保育園にとって非常に大きな変化が2つある年となります。一つ目は、4月より新園長を迎えてスタートする職員体制の変化。二つ目は、年度途中に完成する新園舎への引っ越しによる保育環境の変化です。

職員体制が変わり保育環境も変わることは、職員の負担もかなり増えますが、子どもたちが、快適な園生活が楽しく送れるように、そして保護者の方々からは、引き続き安心してお子さんを預けられる場所となるよう職員一同、同じ方向を向いて心を一つにして進んでまいりたいと考えています。

どうぞ、本年もよろしくお願ひいたします。

富沢わかば保育園

園長 嶺岸 美佐

新年あけましておめでとうございます。

子どもたちと保護者の皆様にとって、笑顔の多い一年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

富沢わかば保育園は今年で設立34年目になります。定員60名の割には広い園庭があり、すべり台やかけっこで思いきり身体を動かしたり、木の実や草花でままごと遊びを楽しんだり、じっくり時間をかけて昆虫の観察をしたりと、四季を通じて遊びに夢中な子どもたちの姿はずっと変わりません。

今年はコロナ渦でお休みしていた「園庭開放」を再開しようと考えています。詳細は保育園のブログでお知らせしますので、ぜひご利用ください。

これからも子どもたちが、安心して過ごせるあたたかい園づくりに取り組んでまいります。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

仙台つばさ荘

施設長 小船 正明

新年、明けましておめでとうございます。日頃より当事業へのご理解をいただきましてありがとうございます。当事業所は昭和54年に改築して以来、46年の歳月を重ねながら多くの方を支援して参りました。ただし老朽化には勝てず、令和7年11月より移転新築工事が着手され、令和8年度中には新しい施設に移転が完了する予定としています。

今後、新しい環境下で生活していく方や、アフターケアをご利用くださる方々の安心で安全な居場所であり続けることをお約束し、併せて地域に根差し愛され必要とされる母子生活支援施設を目指すことを念頭に、職員一同これからも丁寧な支援を継続してまいりたいと思いますので、今後とも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

仙台むつみ荘

施設長 石道 久子

新年あけましておめでとうございます。

“地域の中の母子生活支援施設”を目指し、地域行事への参加、民生委員や主任児童委員の方々との情報交換や学校や保育所との情報共有の機会を持ち、母子生活支援施設のことを知っていただくことができました。今年は、この繋がりを大切にしながら更なる信頼関係の構築、ネットワークを広げる活動を行います。入所者の皆様には安心安全な生活を提供しながら、明るい雰囲気を大切にし笑顔あふれる1年となるよう支援して参ります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、学生数減少で厳しい経営状況が続く中、教職員一丸となり学生募集、経費削減に努めてまいりました。コロナ禍後、すべての学校行事を前に戻すのではなく、新たなイベントと捉えて実施することで学生のモチベーションや学校のイメージアップに繋がっております。

お陰様で令和7年度生の充足率は目標の80%を超え86%となりましたが、定員に対する充足率は66%と厳しい状況であり、18歳人口は今後も減少し続けることは確実です。

昨年から行っております総合型選抜入試の導入・SENRIBIブランドの確立・学則変更等、事業活動収支差額をプラスにする為の対策をさらに推し進めるとともに、入口(高校生)と出口(業界)のニーズをしっかりと受け止め、両者に求められる学校づくりを目指してまいります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



社会福祉法人 仙台市社会事業協会